

## 水環境・生物指標（１）（3-C-9-1～3-C-10-2）

本セッションでは、糞便性汚染の指標である大腸菌数を用いたリスク評価(3-C-9-1)、湖沼への水環境健全性指標への適用と試行、魚類のライフサイクルを組み込んだ都市中小河川の再生(3-C-9-3)、水環境健全指標の湖沼への適用(3-C-9-2)、市民に分かり易い清流指標の検討(3-C-9-4)、新たな糞便性汚染指標としての *Bacteroides-Prevotella* 属遺伝子マーカーの環境水中での挙動(3-C-10-1)、都市水源水の合理的利用のための新規評価手法(3-C-10-2)等、幅ひろい分野の研究発表がなされた。

糞便性汚染指標として用いられている大腸菌によるリスク評価が行われたが、感染リスクの意義付け等については今後の検討を期待したい。

現在河川を対象として作成されている水環境健全指標を改変し、湖沼評価が行われた。湖沼に適した健全性指標の改良が望まれる。

市民に分かり易い清流指標の検討として、市民活動団体の参加者から得られたデータを用いて加工し、数量化の評価を行い、さらにその内容を容易に解釈できるようにした。河川水量、河川周辺の生態系、景観等の多様な側面や多くの視点からの評価が行われた。水辺診断書が作成され、その診断書による評価結果から水辺環境の把握、改善のための目標値の設定、改善策の提案、目標達成の評価等多くの成果が期待され、今後のさらなる研究の展開が待たれる。

糞便性汚染指標としての *Bacteroides-Prevotella* 属 16SrRNA 遺伝子マーカーの環境水中での挙動に関し、種々の環境因子との関連性が調べられた。当遺伝子マーカーを用いる糞便性汚染指標としての有用性が示され、今後、データの蓄積と展開を期待したい。

都市水源の合理的利用のための水質リスクの新規評価手法として、科学的根拠に基づき、現行の各種水質基準の考え方を踏襲しながら、スコアリング、ラベリング、ランキングの3ステップでの評価を行うことを提案した。都市中小河川におけるライフサイクルアセスメントに関する研究では、魚類の移動等を含むライフサイクルを考慮したアセスメントの重要性を示した。

（大阪市立環境科学研究所 芳倉 太郎）